

I 申請概要

1. 申請者

東日本電信電話株式会社
代表取締役社長 高部 豊彦
西日本電信電話株式会社
代表取締役社長 森下 俊三

2. 申請年月日

平成18年7月13日（木）

3. 実施予定日

認可後、速やかに実施

4. 概要

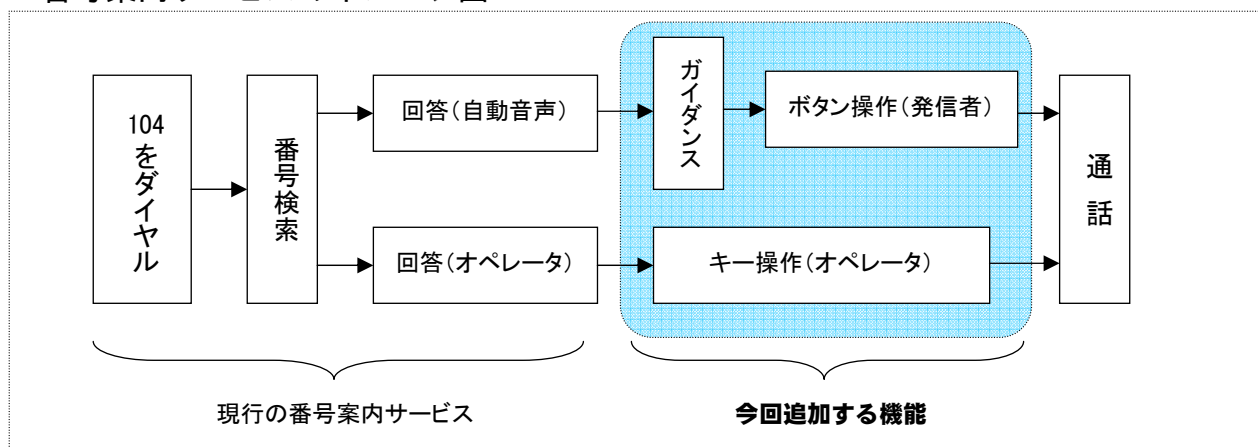
番号案内機能等に係る機能の追加に伴い、当該機能に係る新たな接続料を設定する必要があることから、電気通信事業法第33条第2項の規定に基づき接続約款の変更を行う。

Ⅱ 主な変更内容

現行の番号案内サービス[※]を利用した後、発信者のボタン操作又はオペレータのキー操作により、案内先の電話番号とそのまま通話できるようにする機能を追加することから、当該機能の追加に係るシステム開発費用等を当該機能の利用事業者が負担することについて、接続約款を変更するもの。

※ 発信者が104をダイヤルし、オペレータが手動又は自動により電話番号を検索・案内するサービス。

番号案内サービスのイメージ図



(1) 接続料の設定

本機能の接続料は、以下のコストから成る接続料原価を本機能の予測需要により除して算定。

【本機能の接続料原価の内訳】

- ① システムコスト：本機能に関し新たに開発するシステムに係るコスト。減価償却期間は5年間。
- ② オペレータ等コスト：オペレータの対応等に係るコスト。
- ③ NPS交換機コスト：NPS交換機(番号案内及び手動通話用交換機)の利用に係るコスト。予測需要を基に本機能に係るものと他の機能に係るものに案分。
- ④ 中継交換機コスト：本機能に係る通信は中継交換機を経由する場合があります、それに要するコスト。予測需要を基に手動交換機能の中継交換機コスト単金を乗じて算定。
- ⑤ NTT西日本への番号案内分散呼コスト(NTT東日本のみ)：NTT東日本はNTT西日本のコールセンターも利用しており、それに要するコスト。NTT西日本の本機能の接続料に予測利用回数を乗じて算定。

○番号案内機能等

区分	単位	金額	
		東日本	西日本
番号案内先への通信実現機能	1通信ごとに	25円	23円

(2) 接続料の適用

番号案内先への通信実現機能による案内先との通話サービスの利用者料金設定事業者が負担。

(3) 精算方法について

①番号案内先への通信実現機能（今回新たに追加する機能）

平成19年度は、前年度実績がなく予測需要に基づき算定されるため、当年度実績に基づき平成20年度に全額精算を行う。

平成20年度以降は、前年度実績に基づき遡及精算し、当年度実績に基づきタイムラグ精算を行う。

②既存の番号案内機能等（番号案内サービス接続機能、手動交換サービス接続機能及び自動コレクトサービス接続機能）

上記①の機能の需要によりコスト負担率が変動するNPS交換機コスト及び中継交換機コストについては、平成19年度のみ、上記①前段と同様、当年度実績に基づき全額精算を行う。

(4) 適用開始時期

平成19年4月以降準備が整い次第適用

Ⅲ 接続料算定の概要

(1)原価の算定

A NPS交換機コスト

(単位:百万円)

区分	金額		備考	
	東日本	西日本		
既存のNPS交換機コスト	①指定設備管理運営費	1,403	1,745	FY16実績
	②他人資本費用	10	13	レート×他人資本比率×他人資本利率
	③自己資本費用	25	23	レート×自己資本比率×自己資本利率
	④利益対応税	17	17	③×(有利子負債以外の負債の額×利子相当額)×利益対応税率
	⑤NPS交換機コスト	1,455	1,798	①+②+③+④
番号案内先への通信 実現機能に係るNPS交換機コスト	⑥トラフィック比率(%)	16.68	14.34	回数・時間複合比(H16実績及び本機能の需要予測による)
	⑦NPS交換機コスト	243	258	⑤×⑥

B オペレータ等コスト

区分	金額		備考	
	東日本	西日本		
手動交換機能	⑧オペレータ等コスト(百万円)	299	299	
	⑨オペレータ対応回数(千回)	6,743	5,476	FY16実績
	⑩オペレータ1回当たり対応時間(秒)	34.1	34.4	FY16実績
番号案内先への通信 実現機能	⑪オペレータ1回当たり対応時間(秒)	20.0	20.0	案内後のキー操作等
	⑫オペレータ対応回数(千回)	3,494	4,005	FY16実績
	⑬オペレータ等コスト(百万円)	91	127	⑧/⑨/⑩×⑪×⑫

C システム開発コスト

(単位:百万円)

区分	金額		備考
	東日本	西日本	
⑭創設費	356	377	網改造料の算定式 に準拠
⑮設備管理運営費	89	96	
⑯他人資本費用	1	1	
⑰自己資本費用	3	3	
⑱利益対応税	2	2	
⑲システム開発コスト	95	102	⑮+⑯+⑰+⑱

D 中継交換コスト

区分	金額		備考
	東日本	西日本	
⑳中継交換利用回数(千回)	19,304	26,115	
㉑中継交換利用時間(千時間)	699	910	
㉒中継交換(回線比例コスト:円/回)	0.15	0.13	FY16網使用料算定 根拠より
㉓中継交換(時間比例コスト:円/時)	4.32	2.88	
㉔中継交換コスト(百万円)	6	6	㉑×㉒+㉑×㉓

E NTT西日本への番号案内分散呼に係る番号案内先への通信実現機能コスト(東日本のみ)

区分	金額	備考
㉕NTT西日本接続料(円/回)	23	NTT西日本申請接続料
㉖分散呼に占める当該機能の利用回数(千回)	2,076	
㉗東西分散コスト(百万円)	48	㉕×㉖

(2) 料金の設定

区 分	金 額		備 考
	東日本	西日本	
㉘ 合計(百万円)	483	493	㉗+㉛+㉝+㉞+㉟
㉙ 通信回数(千回)	19,159	21,583	※
㉚ 料金(円/回)	25	23	㉘/㉙

※平成16年度番号案内回数をベースとして通話完了率及び利用意向調査による利用意向率により算定。